

視 座

高等教育・研究機関と地域振興

慶應義塾大学の新しいキャンパス
「TTCCK」

今年の四月、鶴岡市に、日本を代表する総合大学である慶應義塾大学の新しいキャンパス「慶應鶴岡タウンキャンパス」(Tsunokas Town Campus of Keio, TTCCK)が開設された。これは、最先端の科学技術の研究教育によってわが国の科学技術研究水準の向上に貢献するとともに、研究成果を地元自治体、企業等に移転し地域振興を支援する目的で、県及び庄内地域市町村の支援を受け設置されたものである。慶應義塾では、慶應川崎タウンキャンパス(KEIO)、慶應丸の内シティキャンパス(MCC)などとともに、地域との連携のもとで大学の発展方向を探る拠点の一つとして、このキャンパスを位置づけている。

キャンパスの中心となるのは、IT主導型バイオサイエンスの世界の拠点を目指す「慶應義塾大学先端生命科学研究所」である。ここでは工業や医療への応用も視野に入れながら、シミュレーションなどのIT技術をメインにしたバイオ研究を進めようとしている。

この研究所の本体部分は、鶴岡市街地の中心部、鶴岡公園地区内のキャンパスセンター内に置かれているが、この施設は慶應義塾だけでなく、同じく今年四月に酒田市に開設された東北公益文科大学の関連施設、および市の公共施設である鶴岡市致道ライブラリーとの合築となっている。東北公益文科大学では、平成十七年度をめどとしてこの施設に大学院を開設することとしており、将来はこの地区に二つの新しい高等教育・研究機関が並び立つこととなる。

TTCCKの意義

現在、全国では毎年数多くの大学が新設されている。これは短大の四年制への改組、また国家的に人材育成が急がれている看護・福祉系大学の新設とともに、地方公共団体が地域振興の有力な手段として、大学等の新増設に積極的に取り組んでいることが大きな要因となっている。

しかし今後、大学経営は冬の時代を迎えることになる。戦後は所得の上昇や大学自体の増加に伴って高等教育機関への進学率も向上

した。これは国民の教育水準の向上という観点からすれば喜ばしいことであつたが、反面で教育・研究活動の質の低下など問題も指摘されるようになった。その後、平成四年を頂点として大学等進学者は減り続けており、まもなく大学の志願者と入学者が同数となる、いわゆる大学全入時代を迎えるという。全国の大学は、これから存続を賭けた激しい競争の時代に入り、特に地方の大学は不利な環境に置かれるものとみられる。

このような状況のもとで、あえて地域に高等教育・研究機関を設置する意義が何かといえ、それは単に学生・教員が地域に経済効果をもたらすこと、あるいは若者の地元定着を促すことではない。リスクを勘案しても効果が期待され、かつ高等教育・研究機関にしか求めることのできない「知」の成果を、地域において活用するためでなければならない。

少子高齢化社会の到来は、大学のみならず日本の地方全体に人口減少と活力の低下をもたらす恐れがある。地域経済社会の衰退を食い止め、将来の発展可能性を確保しよつと、全国で激しい地域間競争が展開される時代に



鶴岡市企画調整課
小林 貢



鶴岡市郊外の大宝寺字日本国に設置されたバイオラボ棟(実験実習施設)

なるだろう。そのときに、地域の発展を確保するための重要な鍵となるのは、いかに創造的で個性的な知識・技術を地域が保有しているか、ということである。そして、これを地域に提供できるものが、地域に根づいた高等教育・研究機関であると考えられる。冬の時代にあつては、たとえ地方の大学であっても、先進性を持ち、あるいは創造性を有することが、これからのすべての高等教育・研究機関には求められることになる。そのような試みを地域が支援し、また高等教育・研究機関が研究成果を地域に還元することによって、両者の共存関係が生まれるのであり、まさにそ

のような関係を目指しているのが、鶴岡市に設置された慶應義塾大学のTTCCKといえる。慶應義塾大学は文字どおりわが国を代表する総合大学ではあるが、やはり未来の発展を模索しながらさまざまな方策を試みようとしているところである。鶴岡市あるいは庄内地域は、この頼りになるパートナーを得た機会を逃さず、これを新世紀の発展の源としてとらえていかなければならない。

鶴岡市とTTCCK

高等教育・研究機関との連携の第一歩として、鶴岡市では、「TTCCK構想地域振興調査ワークショップ」をTTCCKの開設に先立ち実施したところである。これは、TTCCKとの連携によって市民自らが地域振興を図る試みとして、さまざまな産業分野などで活躍する市民約二十名を委員として実施したもので、平成十一年十一月からの二カ年で八回の全体ワークショップと、延べ二十回を超えるテーマ別検討会を開催し、最終的に四つのテーマに関する構想づくりを行った。その一つである「Ecommunication in Tsuruoka」構想をベースにして、今年八月一日より、ワークショップのメンバーが中心となって東北初の「エコマナー」を地域で流通させている。今回のワークショップは、高等教育・研究機関と地域住民との協働関係をつくっていくための第一歩に過ぎないが、これをきつかけとして、慶應義塾の持つ研究開発力、技術力等と連携した地域産業の振興をはじめ、首都圏

キャンパス等との連携によるさまざまな取り組みが展開していくことを期待している。

鶴岡の歴史を振り返れば、江戸時代の名君酒井忠徳公が藩校「致道館」を設立し、自主性と個性を生かした教育を実践して以来、明治以後も極めて早い時期に中等学校が設置され、戦後はいち早く大学が立地するなど、鶴岡は一貫して庄内地域の教育の中心地として機能してきた。その教育的風土は現在も市民性の中に生きており、これがTTCCKとの連携の基礎になるとともに、山形大学農学部、鶴岡工業高等専門学校、さらには将来設置される東北公益文科大学大学院といった、ほかの高等教育・研究機関とのかかわりをも支えていくことになるものと考えられる。

記念すべき新世紀の幕開けの年にTTCCKが開設したことにより、鶴岡の知のインフラストラクチャーはますます強固なものとなった。鶴岡市としては、これをもとに城下町以来の鶴岡の伝統を再確認し強化していく、いわば城下町鶴岡のルネサンスを展開していきたいと考えているところである。

小林 貢

鶴岡市総務部企画調整課長
 昭和28年 鶴岡市出身
 昭和52年 早稲田大学商学部卒業
 鶴岡市職員に採用
 総務部財政課、建設部下水道課を経て、昭和62年に総務部企画調整課に配属、平成9年より現職。
 【鶴岡市役所】
 〒997-8601 鶴岡市馬場町9番25号
 TEL 0235-25-2111
 FAX 0235-24-9071
 URL : <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/>
 E-mail : tsuruoka@city.tsuruoka.yamagata.jp